

2) 大学の規模 (学生数)

- 未就職卒業生比率が30%以上の大学は、比較的小規模の大学に多くみられる

【大学の規模別の未就職者割合】

		単位：%				合計	
		10%未満	10~30% 未満	30%以上	不明	実数(N)	
卒業生 数	200人未満	20.2	41.5	38.3	0.0	100.0	94
	200~499人	17.9	50.6	30.8	0.6	100.0	156
	500~999人	13.1	59.6	27.3	0.0	100.0	99
	1000~1999人	22.2	55.6	20.0	2.2	100.0	90
	2000人以上	15.4	67.3	15.4	1.9	100.0	52
合計	17.9	53.4	27.9	0.8	100.0	491	

(資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月)

3) 大学の所在地

- 未就職卒業生比率が30%以上の大学は、近畿、南関東という比較的大学の多い地域で多くみられる

【大学の所在地別にみた未就職者割合】

		単位：%				合計	
		10%未満	10~30% 未満	30%以上	不明	実数(N)	
大学所 在地域	北海道・東北	22.4	48.3	29.3	0.0	100.0	58
	北関東	27.8	50.0	22.2	0.0	100.0	18
	南関東	10.9	54.7	32.8	1.6	100.0	128
	中部・東海	32.2	52.9	13.8	1.1	100.0	87
	近畿	12.1	46.2	41.8	0.0	100.0	91
	中国・四国	20.0	64.0	16.0	0.0	100.0	50
	九州・沖縄	11.9	59.3	27.1	1.7	100.0	59
合計	17.9	53.4	27.9	0.8	100.0	491	

(資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月)

(2) 未就職卒業生防止対策におけるキャリア・センターの役割

① キャリア・センター担当者が感じる未就職卒業生の特徴 (未就職者割合別)

- 未就職卒業生の多い大学ほど、学生の課題として「何をしたらいいかわからない」「エントリーシートが書けない」等、就職活動のスタート時点からの問題が指摘される

【キャリア・センター担当者が感じる未就職卒業生の特徴 (未就職者割合別)】

		単位：%		
		10%未満	10~30% 未満	30%以上
		N=86	N=262	N=136
	就職活動をスタートするのが遅い ⁺	31.4	30.2	41.9
	自分の意見や考えを上手く表現できない	30.2	30.2	31.6
	教員や職員にほとんど相談しない	30.2	23.7	27.9
	何をしたらいいかわからない ⁺	22.1	22.9	32.4
	自信がない	20.9	23.7	27.2
	エントリーシートが書けない***	15.1	18.7	36.0
	こだわりが強い*	12.8	16.0	25.0
	友達が少ない	14.0	13.4	13.2
	親から自立していない	9.3	9.9	14.0
	社会人としてのマナーに欠ける	5.8	8.8	12.5
	生活習慣が身につけていない	4.7	8.0	14.7
	ゼミに所属していない	1.2	5.3	8.1
	まじめに授業に出席する	2.3	3.4	5.9
	アルバイトに打ち込む	0.0	2.3	8.8
	サークルなどの課外活動に打ち込む	0.0	1.1	0.7
	成績がよい	0.0	0.8	0.7

(資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月)

② 就職先を決定するに当たって重視する基準

- 未内定学生に特徴的な基準として多く挙げられたのは、地域条件、企業の知名度、企業の業種・仕事内容である。未内定に終わる学生では、特にこれらが「こだわり」となっていることを示唆している

【就職先を決定するに当たって重視する基準】

単位：％、N=491

	指導で重視する基準	学生が重視する基準	未内定学生に特徴的な基準
地域条件(勤務地・転勤の有無など)	30.3%	87.4%	62.5%
企業の知名度	8.8%	71.5%	53.2%
企業の業種・仕事内容	81.3%	79.6%	47.0%
勤務時間・休暇・福利厚生など	29.7%	68.8%	39.3%
賃金	24.8%	68.6%	38.1%
自己の能力・適性の一致	77.8%	49.9%	34.0%
正社員かどうか	80.2%	68.0%	32.4%
企業の将来性・安定性	55.6%	68.4%	31.0%
大学での専門分野との関連	53.2%	51.3%	24.2%
OB・OGの有無・定着度の高さ	59.1%	33.6%	6.9%
無回答	3.1%	1.4%	8.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月)

③ 学生の就職活動にみられる変化

- 未就職者割合の高い大学の担当者が大きく変化を感じているのは、「心理的負担を強く感じる学生が増えた」「キャリア・センターで斡旋できる求人が少なくなった」「学生がインターネットの情報に頼りすぎるようになった」「就職活動を途中でやめる学生が増えた」である

【学生の就職活動にみられる変化】

単位：％

	10%未満 N=88	10~30% 未満 N=262	30%以上 N=137
就職活動への取り組み状況の個人差が大きくなった	29.5	39.7	43.1
心理的負担を強く感じる学生が増えた ⁺	22.7	36.3	37.2
学生の就職活動への取り組みが早くなった	30.7	29.4	27.0
学生の相談が増えた	<u>25.0</u>	<u>27.1</u>	<u>21.9</u>
キャリアセンター(就職部)で斡旋できる求人が少なくなった***	9.1	29.0	26.3
学生がインターネットの情報に頼りすぎるようになった*	15.9	22.9	29.9
経済的負担を強く感じる学生が増えた	14.8	15.6	18.2
就職活動を途中でやめる学生が増えた*	6.8	13.4	20.4
大学主催の就職支援行事への出席率が高くなった*	<u>22.7</u>	<u>12.6</u>	<u>10.2</u>
学生がOB/OG訪問をしなくなった	2.3	10.7	10.9
学生の希望が有名企業に集中するようになった	4.5	8.0	10.2
学生の授業への出席率が低下した	3.4	3.4	5.1
学生の就職活動状況が把握できなくなった	0.0	1.9	5.1

注：太字は未就職卒業生の割合が高い大学のほうが「そう思うが多い」傾向が強い項目、下線は低い大学のほうが少ない傾向が強い項目を示す(記号は、+ p<0.1, * p<0.05, **<0.01, ***p<0.001水準でそれぞれ統計的に有意な差があることを示す)。

(資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月)

- ④ 無業者やフリーターの増加に対する意見（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）
- フリーターになる学生には学生側の課題が大きく、これを支援することが重要だと考えている大学が多い

【無業者やフリーターの増加に対する意見】

単位：%

	10%未満 N=88	10~30% 未満 N=262	30%以上 N=137
学生の職業観、職業意識の欠如が原因である場合が多い	85.2	82.8	91.2
学生が社会人としての考え方や行動ができないことが原因である場合が多い*	80.7	78.6	90.5
学生のコミュニケーション能力が低下していることが原因である場合が多い*	78.4	79.8	89.8
学生が働かなくとも生活していけることが原因である場合が多い	76.1	74.0	76.6
学生の無気力さが原因である場合が多い***	64.8	64.5	82.5
学生のが就きたい仕事の正社員求人が少ないことが原因である場合が多い	51.1	59.5	63.5
学生の学力低下が原因である場合が多い***	33.0	48.9	75.2
保護者が子どもに期待しすぎであることが原因である場合が多い	45.5	46.2	40.9
保護者が無関心であることが原因である場合が多い**	36.4	34.0	49.6
学生が自分の個性発揮にこだわりすぎることが原因である場合が多い	39.8	34.7	46.0
パート・アルバイトの求人が増えていることが原因である場合が多い	31.8	30.9	32.1
大学の指導が不十分なことが原因である場合が多い***	10.2	22.9	38.7
無業でいるよりは、アルバイトでも仕事に就いたほうがいい	87.5	82.4	87.6
なんとしても正社員になれるように徹底的に支援すべきだ	68.2	79.0	75.2
正社員の求人が減少しているのでやむをえない*	25.0	36.6	44.5
フリーターになる学生も就職者と比べて意識や態度に大きな差はない	13.6	13.7	12.4
若者が「自分探し」をする過程として積極的に評価できる	6.8	6.9	8.8
数年のうちには定職に就くのでそれほど問題はない	4.5	1.1	4.4

（資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月）

(3) キャリア・センターの機能と学外資源の活用

- ① 卒業時・卒業後の支援
- 未就職卒業生や早期離職した卒業生への対応としては、約90%の大学が学校として就職相談を受ける体制を整えており、また、約70%の大学が情報収集もできるように配慮している
 - 新卒向けの就職支援の機関や制度については、ポスター等での告知にとどまることもあるが、卒業前に個々に教えることも半数近くの大学が行っている

【卒業時・卒業後の支援】

単位：%

	10%未満 N=88	10~30% 未満 N=262	30%以上 N=137
卒業後も、学校として就職相談を受ける体制を作っている	81.8	91.2	89.8
卒業後も、情報収集ができるように配慮している	65.9	69.8	67.9
新卒向けの就職支援機関や制度についてはポスターなどで告知している***	53.4	71.8	68.6
卒業前に、学生職業センターなどの就職支援機関について、個々に教えている***	34.1	62.6	70.1
卒業前に、新卒向けの職業体験や職業訓練の制度について、個々に教えている***	26.1	44.7	59.1
その他	26.1	24.8	21.2
特に何もしていない	6.8	0.8	0.7
無回答	4.5	2.3	1.5

（資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月）

② 学外からの支援の活用

- 活用された支援の内容としては、講座やセミナー、マナー研修などへの講師派遣が最も多い
- 就職相談・カウンセリングと求人情報の提供も多い
- ジョブサポーターやハローワークからの支援を活用している場合の支援の内容は、求人情報の提供や講座やセミナーなどへの講師派遣が多い

【学外からの支援の活用】

単位：%

	10%未満 N=45	10~30% 未満 N=157	30%以上 N=89
求人情報提供	26.7	26.8	29.2
合同企業説明会・企業研究会	6.7	15.3	11.2
就職相談・カウンセリング	33.3	24.2	33.7
講座・セミナー・ガイダンス・マナー研修	46.7	44.6	44.9
キャリア関連授業	2.2	0.6	3.4
適性検査	2.2	0.6	1.1
模擬面接・エントリーシート添削	6.7	6.4	7.9
新卒体験就職	2.2	0.6	1.1
インターンシップ事前研修・紹介	0.0	2.5	2.2
機関の紹介・引率・リーフレット配布	11.1	15.9	14.6
情報交換、留学生・障害学生支援、その他	6.7	5.1	9.0
無回答	6.7	5.1	2.2

(資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業生支援に関する調査」2010年8月)

「いい加減」に伝えることの大切さ～キャリア・コンサルタントの立場から

「面接試験で、ドアのノックを2回してしまったんですが、はたして大丈夫でしょうか？」と、就職活動中の学生から真剣に相談されたことがある。就活支援セミナーか何かで、「入室時のノックは3回にするように。2回はトイレの確認用です」とか何とか、講師に説明されたい。その学生が妙に生真面目すぎるのか、講師の伝え方が少し硬直的だったのか。あるいは、学生の冗談を私が真にうけてしまったのだろうか。

これから社会に踏み出す若者にとって、大人たちのアドバイスは想像以上に強く響くことがある。それだけ真剣なことだし、だからこそ不安なものなのだろう。実は、こうした類の真剣な相談は、結構、受けたことがある。エントリーシートの書き方、グループディスカッションの口火の切り方、面接のときの質問の答え方…。

「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えることこそ支援である」という諺がある。キャリアという、それぞれなりの答えしか見つけようのないことに対する支援は、なおさらそうだと思う。決して不真面目という意味ではなく、いい加減に伝えることの大切さと難しさに向き合う援助者でありたい。

1級キャリア・コンサルティング技能士 文川 実

4 職業理解（職業情報へのアプローチ）

(1) 職業情報の入手

① OHBY カード

- 職業カードソート法（カードを分類したり、並べ替える作業をすることで、自分の職業興味や職業に対する価値観を知り、関心のある職業やこれまで知らなかった職業について理解を深めることのできる手法）を行うために開発されたカード式の職業情報ツール

- 430職種の職業情報について、写真・イラスト・チャート・動画などで紹介している「職業ハンドブック OHBY」の内容を、48枚のカードにまとめたもの。このカードを使用して作業を行う中で、自分の興味や関心を知ると同時に、知っておくべき必要最小限の職業情報を入手できる

(参照：労働政策研究・研修機構 HP (<http://www.jil.go.jp/institute/seika/ohby/index.htm>))

② キャリアシミュレーションプログラム

- 就業した経験がないか浅い大学生・短大生や若年者向けに開発された、就職後の職業生活のイメージ（就業イメージ）を伝えるためのグループワーク型の教材（授業用またはセミナー用）
- 就職した経験のない若年者に対して、就職後の初期キャリアを中心に職業生活の長期的な流れを体感・理解し、考えを深めてもらうことを目的とする
- 大学生の場合には、主として2～3年生を対象にして、集団で実施することを想定して開発された
- 就職後の長期的な職業生活のイメージを獲得できるだけでなく、社会生活で直面しやすい困難場面への関心を高め、その対処策についてグループワークを通して考えを深めることができる

(参照：労働政策研究・研修機構 HP (<http://www.jil.go.jp/institute/seika/csp/index.htm>))

③ 職業レファレンスブック

- 主要な1,000種類の職業について、それぞれ400文字程度でコンパクトに解説した職業の解説書であり、職業理解のための基礎資料として利用できる

(参照：労働政策研究・研修機構「職業レファレンスブック」2004年8月)

(<http://www.jil.go.jp/institute/seika/reference/index.html>)

④ 厚生労働省編『職業分類表（平成23年改定）』

- 厚生労働省編職業分類は、職務の類似性、ハローワークにおける求人・求職の取扱件数、社会的な需給等に基づいて、体系的に分類したものであり、求人・求職のマッチング等に使用できる

(参照：職業分類の説明は、https://www.hellowork.go.jp/info/mhlw_job_exposition.html)

(参照：職業分類の内容は、https://www.hellowork.go.jp/info/mhlw_job_dictionary.html)

(参照：職業分野別検索は、https://www.hellowork.go.jp/info/mhlw_job_dictionary_field.html)

(2) 厚生労働省の雇用情報システム

① 大卒等就職情報 WEB 提供サービス

- 厚生労働省が、新規学卒者（大学4年生、短大・専修学校2年生等の「卒業年次者」）を募集する企業の求人情報等をインターネットにより提供するもの（既卒者が応募できる求人情報も掲載されている）
- 対象者は、自宅や大学などのパソコンからインターネットを用いて「クラブ会員登録」を行うことで、様々なサービスを受けることができる
- 学生と既卒者に向けて提供されているサービスには、①新卒応援ハローワークにおける専門の相談員による職業相談の案内、②企業や就職支援団体が主催するイベント情報の検索、③企業情報の検索（求人票の閲覧やエントリーの申込も可）等がある
- 2013年1月末日現在、約16,400人がクラブ会員登録し、学生求人の件数は約3万2千件である

(参照：大卒等就職情報 WEB 提供サービス (<http://job.gakusei.go.jp/>))

② ハローワークインターネットサービス

- 全国のハローワークで受理した求人情報を、インターネットを通じて検索できるシステム
- 2013年2月20日時点で、約85万件の求人情報が掲載されている
- 求人情報検索の「求人情報の種類」で「学生」を選択することにより、学生（及び既卒者）を対象にした求人の情報を検索することができる

（参照：ハローワークインターネットサービス（<https://www.hellowork.go.jp/>））

③ しごと情報ネット

- 民間の職業紹介事業者やハローワーク等約1万の参加機関から提供される求人情報の中から、仕事探しができるポータルサイト（2013年2月20日現在求人総数約120万件）
- 留学生向け求人では、新規学卒者向け求人のうち、留学生を積極的に採用する求人の情報が提供されている

（参照：しごと情報ネット（<http://www.job-net.jp/>））

大学でのキャリア教育の課題

最近の学生は出席率が良い一方で、質問をせず、言われたことしかしません。質問をしないのは「相手に迷惑をかけないため」。言われたことしかしないのは「余計なことをして怒らせないため」、彼らなりの「適応」らしいのです。

働くことについて聞いてみると、①真面目に働きたいと考えており、②就職だけでなくリストラやパワハラなど将来不安が強いが、③不安を解消するための努力はしていません。あくまで受身なのです。また目標の有無、目標達成に向けた行動の有無について聞いてみたところ、①ある程度の目標は持っているが具体的でなく、②行動も具体化していません。「具体的な目標を書け」と言っても書けない。具体的な目標を持たせるために、自己理解や仕事理解を進めることが必要と考えています。

私が管見するところ、仕事理解の方法に関する研究は少なく、手探りの状態です。私は、「(相手から見て) どういう仕事がいい仕事か」「どうすれば(自分が) いい仕事ができるか」を考えさせるようにしています。職業カードソートやナラティブアプローチなど最近の技法やキャリア理論を参考に、早い段階から将来を意識させることが重要だと考えています。これまでどう生きてきたか、これからどう生きていきたいのかを明確にできるのがキャリア・コンサルティングなのではないでしょうか。我々自身の日々の実践や学びが試されているように思います。

秋田県立大学 渡部 昌平

5 就職活動に対する支援制度の理解

(1) ジョブサポーターによる支援

① ジョブサポーターによる支援内容

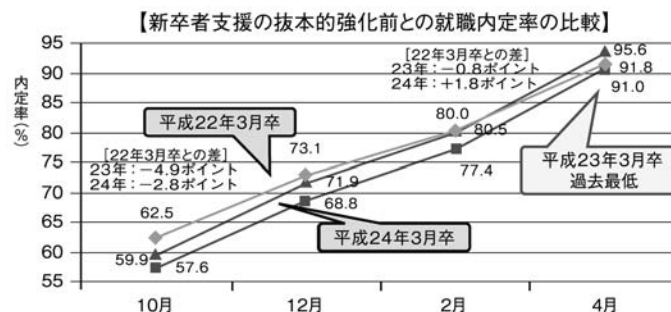
- ジョブサポーターは、大学等に対し、学校と緊密な連携の下、大学訪問等による未内定者の早期把握、学生に対する個別支援（エントリーシートの作成指導、面接指導、応募先の選定等）、就職面接会の開催支援等を実施する
- 「新卒応援ハローワーク等」においては、①インターネットを通じた広域的な求人情報の提供、中小企業とのマッチング、求人開拓、②就職支援セミナー、就職面接会等の開催、③希望者に対する個別支援（エントリーシートの作成指導、面接指導、応募先の選定等）、保護者への周知・啓発等、学生の就職支援に向けた活動をしている

- ジョブサポーターは、大学等での就職支援担当や企業の人事労務担当の経験者、キャリア・カウンセラー（キャリア・コンサルタント）の資格を有する人等になっている
（参照：厚生労働省「若年者雇用対策」（http://www.mhlw.go.jp/english/dl/employment_jpn.pdf）2011年3月）

② ジョブサポーターによる支援の効果

- 2011（平成23）年度のジョブサポーターによる支援で就職が決定した人は、163,133人となった。特に2012（平成24）年1月～3月の期間、ジョブサポーターが支援し就職決定した現役学生が15,543人になり、卒業前最後の集中支援によって、内定率にして約4ポイントの押し上げ効果があった

別紙



（資料出所：厚生労働省「大学等新卒者の就職支援の強化の効果について」2012年5月15日）

(2) 新卒応援ハローワーク

① 新卒応援ハローワーク

- 大学院・大学・短大・高専・専修学校等の学生や卒業後未就職の人の就職を支援する専門のハローワークで、全国に57か所設置されている
（参照：厚生労働省 HP（<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/5a.pdf>））
- 新卒応援ハローワークを利用できるのは、大学等の卒業年次（大学は4年生、短大は2年生等）に在学の人、既卒3年以内の卒業生等である
- 利用希望者は、利用に際し、窓口で登録を行う（登録のための予約は必要がない）。窓口で登録・受付をすると、求人検索用のパソコンや書籍などを自由に利用できるほか、実際の就職活動についても、随時、相談や紹介が受けられる
- 求人情報は、「大卒等就職情報 WEB サービス」や「ハローワークインターネットサービス」のHPからも検索できるが、窓口では、インターネットに公開していない求人も用意されているため、新卒応援ハローワークの窓口に出向くことで、より幅広い求人情報を入手することができる

② 新卒応援ハローワークの活動内容

- 地元企業の求人情報だけでなく、全国の求人情報（仕事情報・企業情報）を検索できる
- 仕事探しに関する相談（求人の検索方法、希望する求人に対する応募の仕方、仕事を探すうえでの疑問の解消等）、エントリーシートや履歴書の作成相談、面接指導、臨床心理士による心理的なサポートなどを行っている
- 年間を通じて、就職面接会（就職フェア）や就職活動に役立つ各種のセミナー等のイベントを開催している（参加費は無料）

（参照：就職面接会の開催スケジュールなどは、大学等就職情報 WEB サービスのHPから検索）